

ハワイの日系アメリカ人



ハワイ島ヒロのパホアの日系人の方々
(パホア日系人会館にて)

中央大学文学部・森茂岳雄教授（教育学、多文化共生教育、人権教育）のゼミが、毎年ハワイ島のヒロを訪問しています。日系アメリカ人の方々との交流と調査・研究のためですが、この一行に同行させていただく機会を得ることができました。

1868年（明治元年）、153名の日本人が日本で初めてハワイに渡りました。この人たち一世は、現地では元年者（がんねんもの）と呼ばれていました。当時、ハワイ王国は世界でも有数のサトウキビの輸出国であり、ハワイ人だけでは、サトウキビのプランテーション

の労働力を賄うことはできず、海外から移民を募集しました。戦前は、ハワイの人口の60%は日系人であり、ハワイ社会の基礎は、これら日系人によって築かれたといっても過言ではありません。

◆ サトウキビのプランテーションでの生活 ◆

「日本人が住んでいた家は、ニワトリ小屋のように狭くて小さく・・・」

（「The 一世 パイオニアの肖像」から）

「3年間で400万円稼げる」といった謳い文句で募集していたところもあるようで、その実態は半ば奴隷に近く、現場監督の鞭で殴る等の酷使や虐待が行われた例もあったと聞くことができました。差別・偏見と貧困との闘い、そして日本人としてのアイデンティティーの問題など、苦難の150年の歴史を歩んできたようでした。この一世（元年者）の人たちは、自分たちがアメリカ人として認められない苦しみから、自分の子どもたち（二世）には、教育を受けさせることに努力したそうです。高い教養こそ、アメリカ人から侮辱を受けないための方法であると考えました。



100年以上続くハワイ島・パホアのボンダンス（盆踊り）



ハワイ大学ヒロ校のコンビニで食べたBENTO（弁当）

◆ 強制収容所 ◆

1941年、12月7日の真珠湾攻撃。この時から、日系人は「敵性外国人」とみなされるようになりました。そして、強制収容所に入ることになります。太平洋戦争の中、強制収容所で生まれ、終戦後日本に戻ったものの再び、アメリカに渡った方の証言です。

「真珠湾攻撃のあった日になると普段仲の良かった友だちからもJAP!と蔑称（べっしょう）で呼ばれました。半生は日本人に対する差別との闘いでした。・・・次世代の人たちに自分のような経験をさせたくないとの思いから、戦争や差別のない世界の実現に向けて訴え続けています。」

(<http://www.waseda.jp/sem-muranolt01/KE/KE0002.htm>)

日系アメリカ人は、今やアメリカ社会の一員として認められ、活躍の場を広げてきています。戦後、日系アメリカ人賠償請求法が成立し、1990年から実際に支払われました。その司法省の式典の時、渡された保証金に、ブッシュ大統領の謝罪文が添えられていました。

謝罪と保証金だけでは、失われた年月を回復し、苦痛に満ちた記憶を消し去ることはできません。・・・心からの謝罪を表明し、償いをなす法律を制定することによって、あなた方の仲間、アメリカ国民は、自由と平等と正義の名のもと、アメリカの理想にまい進しようと決意したのです。